

方針：『みんなが参加したくなる土壌づくり』



助けたり、助けられたり。
困りごとの解決はお互いさまで



高齢者施設でボランティア活動をする小学生たち



思いを語り合える場づくり

【取り組み内容】『〇〇をかたろうな』(様々なテーマ別座談会)の開催

「語り合い」はお互いの理解を深めます。「語り合い」の中で、地域の困りごとに気づいたり、解決策を見出したり、お互いさまの関係を築きながら思いを伝え合い、地域のことをみんなで考えませんか。

例えば・・・地域活性の取り組みをしている人たちで、サロン活動者で、交通や防災などテーマ別に、いろいろな思いを語り合しましょう。

「やっぱり、この京丹波町が好き」「自分の住む地域を何とか良くしたい」「各地域のいろいろな取り組み実践について話をしてみたい」「この町に移住してこられた人は新たな視点でこの町の良さを伝えてくれるのではないだろうか」このような思いをお持ちの方がたくさんおられること、そしてその思いを語り合う場や、共有する機会の大切さをみなさんと一緒に再確認できました。地域を愛する思いは、地域福祉をすすめる上で大きな原動力となります。楽しく無理なく“語り合う場”づくりが必要です。



重たい荷物もみんなで協力しあって
地域ぐるみで買い物支援



外国籍の技能実習生が多く暮らす地区
ではふれあい・いきいきサロンで交流
が深まっています

人と人との結び目づくり

「つながり」は地域の中での孤立を防ぐだけではなく、お互いに声をかけ合える関係が築けます。安心して暮らせる関係を増やしませんか。

京丹波町では、昔から「ご近所さん」、「お互いさん」といった、助け合い・支え合いの文化が残っている一方で、ライフスタイルの変化により地域とのつながりの希薄化や、地域活動等の担い手不足などが課題となっています。

また、少子高齢化にともない区単位での取り組みや、伝統行事の維持も難しくなっています。共通の課題や目的を持った団体・地域が連携・協同したり、地域の中でお互いに「助けて」と言える関係づくりや、人に「頼り合える」という関係づくりなど“つながる”ことが重要です。

みんなの出番づくり

「出番」があり、活躍の場があるということは人生を豊かにします。お互いを認め合い、みんなが活躍できる場を広げませんか。

地域の中には、役割がないと参加しにくい人、集まる場があれば楽しくお喋りできる人、趣味多彩な人、障がいのある人、閉じこもりがちな人、外国から来た人など…さまざまな価値観や文化的背景の違いをもつ人たちが暮らしています。それぞれに自分に合った居場所や出番・活躍の場があれば暮らしが豊かになります。

そのためには、既存の価値観に捉われるのではなく、お互いを知り、認め合い、それぞれが活躍できる場を広げることが大切です。